

柏尾川の桜を未来につなぐ。

柏尾川のサクラの歴史は古く、江戸時代の安政3年(1856年)に植樹されたことが始まりとされています。

その後、明治後期の耕地整理や第二次世界大戦時に全て伐採されたこともありましたが、その度に地域の皆さまと共に植樹を行い、柏尾川桜並木は守られてきました。

しかし、そんな柏尾川桜並木も高齢化や病害などにより、倒伏などの危険のあるサクラが増加し、やむを得ず伐採したため、近年、減少しています。

そこで、柏尾川桜並木の減少を食い止め、健全な生育環境を整えながら現在の景観を維持し、将来に引き継いでいくことを目的に

【戸塚区柏尾川桜並木保全・再生計画】を策定し、地域の皆さまと協働で柏尾川桜並木の保全・再生に取り組みます。

将来に向けて柏尾川の桜並木の景観を継承していくために

既存のサクラを生かした景観形成

- 間隔が狭い場所には補植せず、10m間隔を保ってサクラをのびのびと育てる
- 今あるサクラを生かして、景観を維持

植栽場所に適した品種の選定

- 主となる品種をジンダイアケボノとしつつ、植栽場所が狭い場所に適した品種を植える

サクラが健全に生育できる環境を整備

- 10m間隔でサクラを補植
- 植え替えの際には根上がり防止対策を施す
- 計画的な植え替えの検討

地域と行政が協働し、維持管理を行う仕組みづくりを検討

- 地域の皆さまが参加できる保全・再生活動を検討し、協働で桜並木を守る

主となる品種をソメイヨシノからジンダイアケボノに転換

- 病害に強い品種への転換
- 開花時期や花の特徴がソメイヨシノに似ている品種への転換で景観を継承

今後の展開

区制90周年を迎える2029年に向けて、市費をはじめ、ふるさと納税などの財源を活用しながら、保全・再生を進め、サクラの減少を食い止め、現在の景観を維持していきます。

未来に桜を残すには…

ソメイヨシノは病気に弱かった

柏尾川に現存する桜の中で一番多いのは「ソメイヨシノ」です。

「ソメイヨシノ」はサクラの中でも生長が早く大木になりますが、病気などに弱いとされています。

そもそも、サクラには「日当たりを好む」、「病虫害に弱い」、「土壌の影響を受けやすい」などの特徴がありますが、

サクラの植栽間隔が5~6メートルと近接している箇所は、日照不足や土壌状態不良により樹勢が衰え、枯れ枝が多くなっています。

令和5年度に実施した樹木医診断では、約100本のサクラについて倒伏などの危険があるとされ、令和6年6月までに全て伐採しました。

伐採により隣り合うサクラ同士の距離が大きくなってしまっている箇所があります。また、サクラが生長するにつれ、根が太くなることで、

歩道の縁石や舗装を持ち上げ、でこぼこになっている箇所や、車道に面して植えられているサクラが道路上の安全な通行を確保できていない箇所もあります。

桜とともに、これからも

GREEN×EXPO 2027に向けて ~戸塚区での取組~

GREEN×EXPO 2027開催777日前

- 「シドモア桜の会 横浜」より寄贈いただいたシドモア桜を1月31日に舞岡熊之堂交差点付近に植樹しました。



GREEN×EXPO 2027開催2年前

戸塚駅周辺でGREEN×EXPO 2027を紹介するイベントを開催します。JR戸塚駅で切り花配布や、区役所3階区民広間でパネル展を行います。3月19日(水) ※詳細は今後、区X(エックス)などを通じてお知らせいたします。



公道マスコットキャラクター トゥンクトゥンク ©Expo 2027

GREEN×EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月~9月 横浜・上瀬谷